

販売実績 30 年超えのお役立ちアイテム

サビの発生は本当に防げる？



本体はエンジンルーム内!
取り付けはDIYでもOK!!

お気に入りの愛車を長年乗っている人や沿岸部に住む人に特に注目してほしいのがサビ防止装置「ラストストッパー」。サビを半永久的に防ぐという、その力は本物なのか？ 独自のテストで実力を検証してみた。

取材・文/浜先秀彰 撮影/金沢文春

ツーフィット

ラストストッパー

Model:46-4201A

(ヘビーデューティータイプNEW)

3万3000円

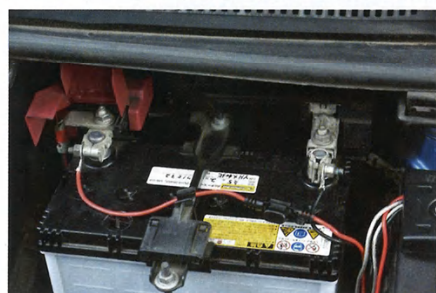
Model:46-4200A

(レギュラータイプNEW): 2万7500円

Model:46-4202A

軽自動車・リッターカータイプNEW: 2万2000円

30年以上販売しているが、その間に何度も改良が施され、完成度を高めている。沿岸部や融雪剤地域だけでなく、近年の気候変動の影響で市街地などでも塩害は確認されている。クルマのサビは一気に進行することがあるので中古車だけでなく、新車のうちから導入をおすすめ



電源線をバッテリーのプラス端子とマイナス端子に接続。本体には動作確認用LEDを装備する



パルス線は束ねずに伸ばして装着!

ヘビーデューティータイプは2本のパルス線をボディ前方と後方にそれぞれ取り付ける

塩水を吹きかけてサビを発生させて効果をテスト!



左がテスト開始直後。右がテスト後2日経過した状態。ラストストッパーを装着している方はサビを抑制していることがわかる。疑似的なテストだが、車両でも同様の効果が期待できそう

●テスト方法



小型バッテリー、鉄板を2枚用意。片方にラストストッパーを接続。その後数時間おきにスプレーで塩水を吹きかけ、乾燥させるのを繰り返し、経過を観察

【結論】

愛車のサビが心配ならこれで対策をすれば安心です!

電子サビ防止装置の「ラストストッパー」はツーフィットが30年以上販売するロングセラー。ボディのほとんどの素材が鉄である自動車にとってサビは最大の敵であり、数十年乗り続けているクルマや沿岸部・積雪地で使われるクルマのオーナーにサビ対策は重要な課題だ。ラストストッパーは本体をバッテリーに接続し、ボディへと断続的に電子を送るという仕組み。欧米では半世紀も前からコンピナートや地下パイプライン、海沿いの水道施設、橋梁の橋げたなどで使われていたということと信頼性も高い。

ということで本誌ではその効果を確認するためにテストを敢行。2枚の鉄板を用意し、片方にラストストッパーを配線。両方に塩水スプレーの噴射と乾燥を繰り返してサビの発生を促す。そして約2日後の結果が上の写真だが、その差は一目瞭然! その効果はしっかりと確認できた。